

第 3 回部会への情報提供

こども・教育関連の情報に加えて、若者支援の状況についても整理します。

書いているうちに、情報や確認事項や提案がごちゃ混ぜになってしまったので、メモ書き程度に利用させてください。

1. 出前授業

墨田区には「学校支援ネットワーク事業」という、民間の事業者が簡単に出前授業を提供できる仕組みがあります。

2009 年にスタートした古い仕組みが未だに利用されていますが、IT に不慣れな層にも利用できる簡易な仕組みで、現在も十分に機能しているように見受けられます。

学校支援ネットワーク事業

https://www.city.sumida.lg.jp/kosodate_kyouiku/tiiki_kyouiku_shien/gakkoushien.html

2. 部活の地域移行

墨田区では 2023 年に剣道、フットサル、英語、エンタメの 4 つの部活が地域に生まれ、地域団体に指導を依頼しています。

しかし、それ以降、新しい部活は増えていないようです。

出前授業のように、もっと積極的に外部のリソースを活用できないのでしょうか？

学校の目の届かないところに子どもを集めるリスクはあると思いますが、それは塾や習い事、子ども食堂などにもある事ですし、もっと広く地域の団体に参加を呼び掛けても良いと思うのですが。

3. 放課後子ども教室

墨田区には放課後の小学校を活用した「放課後子ども教室」の取り組みがあります。

学校、PTA、保護者、地域のボランティアなどの協力で児童の居場所を設けています。

その中でさらに、平日週 3 日以上学習活動を実施している学校を「いきいきスクール」と呼んでいます。

以下の WEB ページに

実施にあたっては、学校、PTA、地域のボランティア等で構成する「運営委員会」を各校で立ち上げ、準備の整った学校から開設していきます。

との情報があります。

放課後子ども教室

https://www.city.sumida.lg.jp/kosodate_kyouiku/tiiki_kyouiku_shien/hokagokodomokyositu.html

4. 中和小学校 ふるさとフェス

「いきいきスクール」の1つでもある中和小学校が先日、設立 150 年を迎え、それを機に「ふるさとフェス」という新しいお祭りが生まれました。

これを主催したのは「中和小交友会」という中和小を応援する会で、PTA や同窓会などとは異なる枠組みで動いています。

この会自体は元々存在していたそうですが、式典で挨拶する程度で活動はほとんどなかったところ、PTA 会長をしていた高木さんが引き継ぎ、現在の活動につなげたそうです。

交友会は 10 名ほどのメンバーで構成されており、このお祭りもほぼそのメンバーで運営されたとの事です。

5. コミュニティスクール

墨田区教育施策大綱（2022 年度 - 2025 年度）に以下の文言があります

学校と地域との協働

学校と地域団体との協働体制の強化を図るため、コミュニティ・スクール導入に向けた検討を進めるとともに、地域における子どもの見守り活動や体験活動をはじめ、防災訓練等を契機とした地域との連携による防災教育の充実などにより、区立学校等、PTA 及び地域防災組織等との交流を促進する。

また、区立学校等の施設については、学校運営との調整を図りつつ、地域住民が身近に利用できる仕組みをつくる。

しかし、東京都教育委員会の資料によると、現在、墨田区のコミュニティスクールは 1 校となっています

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/primary_and_junior_high/communityschool.html

墨田区でコミュニティスクールの導入が進んでいないのは何故でしょうか？

放課後子ども教室や「中和小交友会」の活動のように、すでに地域と連携する仕組みはある

ように思えるのですが。

墨田区の下町気質を活かした「地域全体で子どもを育てる」という文化を醸成する良い機会になる事を期待しています。

6. 不登校支援

墨田区には、不登校児の居場所や支援の鳥悔いが少ないように感じます。
フリースクールも少なく、空きもないようです。

不登校児の保護者の会も、私が知る限り区内に1つしかなく、十分な情報共有ができる環境にありません。

区内では十分なケアができないという事で、近隣区のフリースクールに通わせるケースも多いと聞きます。

保護者の方も、子どもたちの扱いに困り、情報を求めています。

自分たちで講師を呼んで勉強会を開くなどしていますが、特に高校卒業以降のキャリアデザインに不安を抱えている方が多いようです。

また、そもそも不登校のきっかけとして、アップデートできていない教師の存在が気になります。

最近の子どもたちに増えている発達障害やHSCなどの特性を理解しない行動から、子どもたちが学校に行けなくなるケースをよく耳にします。

福祉的な視点を持った教師への指導、期の途中でのクラス替え、学校内での居場所づくりなど、学校側の柔軟な対応が求められているように感じます。

7. 学校内へのリーチ

子どもの居場所を学校内につくる取り組みが全国的に広がっています。

私は神奈川の高校で居場所づくりをしており、「校内居場所カフェ全国ネットワーク」の活動にも関わっている経験から言うと、学校の外にある居場所と学校内の居場所では、子どもたちに関われる機会が圧倒的に違います。

学校内にある居場所は、子どもたちと継続的に関わり、子どもたちの課題を早期に発見し、ソーシャルワークにつなげるのに非常に有効です。

9/16に豊島区立西池袋中学校で「中学校の居場所サミット」が開催されました。

そこでは、西池袋中学校の「にしまるーむ」や足立区の花保中学校にあるASK (After School

Katariba)、板橋第三中学校の SBS ルームなどの事例報告がありました。

にしまる一むは豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク、ASK はカタリバといった外部の団体が中心になって運営しています。

コミュニティスクールが実現されたら、地域の力を使って、このような居場所の運営も可能になるのではないのでしょうか。

中学校の居場所サミット

<https://toshimawakuwaku.com/2024/08/20/0916/>

8. ユースワークについて

不登校の問題は、引きこもりやニートといった社会問題に直結する可能性があります。

墨田区には、若者が気楽に集えるユースセンターもなく、ユースワークにつなげる機会が少ないのではないかと感じます。

墨田区のユースワーカーは、どこに存在しているのでしょうか？

悩みを抱えた中高生や既卒者は、どこで相談したら良いのでしょうか。

9. 福祉との連携

前回も教育と福祉の連携が必要と話しましたが、一人の子どもをみんなで取り囲む、一貫した支援の必要性を感じています。

福祉的支援は年代によって分かれているため、支援の分断が生じます。

現状の社会福祉の領域は高齢者、障害者、児童（＋貧困）に偏っています。

いわゆる社会的弱者という事でしょうが、制度から漏れる、制度の狭間にいる人の方が大変…という事は有識者も指摘しています。

この審議会の委員も様々な属性の当事者、支援者が集まって、それぞれの立場を代弁していますが、社会課題が複雑化・細分化していく中で、属性によって分けるようなやり方では、漏れが出てしまうのは当然と言えます。

これまでも、ニートや引きこもり、発達障害、最近だと境界知能など、これまで問題視されていなかったところから、新たな困窮層が生まれてきました。

この 10 年の間に新たなセグメントが浮上してくる可能性も十分に考えられます。

そういう状況にあっては、社会福祉にも縦割りではない支援の形が求められると覆います。以前から小さな居場所を増やしていく事を提案していますが、最終的には、あらゆる属性の人たちが、誰でも気軽に来られるフロントエンド的な居場所ができて、そこから福祉的な支援とつながっていけると良いのではないかと思います。

世田谷では、妊婦や未就学児が集まれる「おでかけひろば」という居場所事業があります。行政が民間の運営事業者に運営を任せる形で展開（公募）しており、ベビーカーや子どもの足で歩いて 15 分ほどの距離で整備をしていくという明確な整備計画を立てています。

こういった、より具体的で分かりやすい整備計画を示せば、空白地帯も視覚化できるようになるので、有意義ではないかと思っています。

令和 6 年度おでかけひろば整備・運営事業者募集について

<https://www.city.setagaya.lg.jp/02413/10724.html>